

平成 1 8 年度当初予算 施策別概要

5 1 3 科学技術交流の推進

(主担当部局 : 総合企画局)

- 51301 研究交流の推進 (総合企画局)
- 51302 交流による科学技術の振興 (総合企画局)
- 51303 開かれた公設試験研究機関の推進 (総合企画局)

< 施策の目的 >

- (対象) 県民と研究機関が
- (意図) 科学技術に関する交流を深めている

< 施策の数値目標 >

| 目 標 項 目 | | H 1 5 年度 | H 1 6 年度 | H 1 7 年度 | H 1 8 年度 |
|-------------------------|-----|----------|----------|----------|----------|
| 県試験研究機関の産学官共同研究件数 (%) | 目標値 | 2 4 | 3 6 | 3 7 | 3 8 |
| | 実績値 | 3 5 | 3 6 | 3 7 | - |

科学技術振興センターが実施する産業界、大学等高等教育機関との共同研究の件数

< 平成 1 8 年度に残っている課題 >

本県の経済発展、県民生活の向上には科学技術の振興が不可欠であり、知的財産を用いた産業競争力の強化が求められています。三重県独自で特色ある知的財産の創造、保護及び活用についての環境づくりが必要です。

科学技術による本県の発展を図るには、従来の枠を超えた分野横断的な共同研究が求められています。そのため、産業界や社会のニーズを的確に把握したうえで、企業、大学、行政等の産学官連携による研究交流や共同研究をさらに推進しなければなりません。

世界遺産登録をされた「熊野古道」については、集客交流につながる新たな特産品の地域ぐるみの開発が望まれています。

科学技術の振興のためには県民の理解と参画が不可欠であり、県民の意見を科学技術の振興施策に反映させるための事業や科学技術に親しむ取組の拡大が課題です。

< 平成 1 8 年度の施策の取組方向 >

元気な地域産業の創出と知的財産を大切にす環境づくりを目的として、知的財産の創造、保護、活用等の指針となる「知的財産戦略指針」の進行管理と普及啓発に取り組みます。

産業界、大学等と連携し、国等の競争的研究資金獲得につとめ、産業振興、健康・安全、環境創造に貢献する大規模研究プロジェクトや共同研究を推進するとともに、研究者間のネットワークづくりを行い、新しい研究開発につなげていきます。

東紀州地域の生産者、民間企業、行政と科学技術振興センター、高等教育機関が連携・協力しながら地域産品や歴史的資源を活かした新しい地域特産品を開発します。

科学技術に対する興味や関心が高まるように、子どもを対象にした科学体験教室や大人を対象にしたセミナーなどを実施するとともに、インターネット等を活用して科学技術振興施

策等への意見を聞き取ります。

<主な事業>

(重) 知的財産戦略指針推進事業費【基本事業名：51301 研究交流の推進】

当初予算額： 10,000千円 3,148千円

事業概要：平成17年度に策定する「知的財産戦略指針」について、その進行管理を行うとともに、関係機関と連携を取りながら、シンポジウム、説明会など普及啓発を行います。

(新) 競争的研究プロジェクト戦略推進事業費【基本事業名：51301 研究交流の推進】

当初予算額： - 千円 5,058千円

事業概要：大型研究プロジェクトの立案・申請・獲得に向けて、県内の大学や企業へのプロジェクト提案・調整等を行うとともに、科学技術振興センターが保有する知的財産を活用するため、企業等との連携を図ります。

地域産学官研究交流事業費【基本事業名：51301 研究交流の推進】

当初予算額： 4,490千円 5,382千円

事業概要：県内高等教育機関、産業界、科学技術振興センター、行政等が連携して、産業界のニーズと研究機関のシーズをマッチングさせる研究者ネットワーク（みえ研究ネットワーク）を構築し、産学官の連携による研究開発等を促進します。

(重) 熊野古道特産品共同研究開発事業費【基本事業名：51301 研究交流の推進】

当初予算額： 5,011千円 5,008千円

事業概要：東紀州地域の生産者・民間企業、市町村、県、高等教育機関等が連携・交流しながら、カンキツ類、紅茶等地域資源を活かして特産品開発を行います。

なるほどコミュニケーション推進事業費【基本事業名：51302 交流による科学技術の振興】

当初予算額： 2,588千円 2,667千円

事業概要：県民と幅広い交流を実施し、科学技術振興センターの研究に対する県民の理解増進や科学技術への関心を高めるとともに、県民からの意見を聴取し、コミュニケーションを一層進めることにより、県民が科学技術に親しむことができる科学風土の育成をめざします。